

「ファミリーハウス」と呼ばれる施設を存じだろうか。重い病気の子供たちが、自宅から遠く離れた都心の病院に長期入院する際、付き添う家族が低料金で泊まることのできる施設のことだ。大病院が集中する札幌では二十五施設が登録、患者家族との間の橋渡し役を務めるボランティア団体は今年設立から五周年を迎える。春休みを利用した子供たちの入院も増える季節。「病院近くのわが家」とも呼ばれるファミリーハウスの役割と意義について紹介する。

(天沼敷)

■付き添い負担軽減

ファミリーハウスは、小児がんや白血病といった重病の子供たちと、付き添う家族を支援する施設。手術や放射線治療、骨髄移植など高度な医療を受けられる病院は札幌に集中。長期入院を余儀なくされ、何カ月にもわたるのは珍しいくない。

日帰りの難しい地方在住の場合、母親ら付き添う家族は故郷との二重生活を余儀なくされる。長期滞在のために部屋を借りたり、ホテルに泊まる例もあるが、小さな子を持つ父母は若く、治療費だけでも大変なところに経済的な負担は重い。

低料金で泊まれる滞在施設を用意し、病気の子を持つこうした家族を支えようというのがファミリーハウスの運動だ。支援は経済面にとどまらない。子供の前では元気に振る舞わなければならない親が、夜一人になり、感情を抑えずに泣く部屋になる。同じ境遇の親同士が情報を交換したり、励まし合う場にもなる。食の細るわが子に台所で料理を作って差し入れてあげたり、外泊許可の際は自宅から父親やきょうだいを呼び、

知っていますか

闘病の子ども そばで支える「わが家」

「ファミリーハウス」

暮らし
金曜プラス

ファミリーハウス 1974年、米国フィラデルフィア小児病院近くに第一号が建設された「ロナルド・マクドナルド・ハウス」が原型。ハンバーガーチェーンのマクドナルド社が基金の一部を出資するなどし、現在では日本を含む世界24カ国に広がっている。日本では91年、東京・築地の国立がんセンター6A

空き部屋活用で拡大

病棟(小児科)母の会を中心に始まった「愛の家」建設運動が出発点。93年には東京・調布に「かんなる〜の家」が開設された。前年の3月、骨髄異形成症候群のため22歳で亡くなった男性の遺志を両親が継ぎ、私財を投じて息子の1年目の命日に開いた。

愛の家運動は現在の民間非営利団体(NPO)「ファミリーハウス」(東京)に引き継がれ、いまでは全国各地で65団体86施設が、同団体やボランティアなど、多くの善意で支えられながら運営されている。

北海道での運動のきっかけとなったのも、9歳のわが子を白血病で亡くしたある母の声だった。

運動の輪は少しずつだが拡大。98年11月25日の北海道新聞夕刊で報じた「札幌で長期入院の難病児家族の宿泊支援よう

空き部屋の提供を」という記事に対して、「ワンルームの空き部屋を役立てて「娘そうと思っていたけど、よかったら」という声が数十件寄せられた。

こうしたアパートなどのオーナーの参加でさらに輪が広がる中、北海道ファミリーハウスが2000年11月に設立。アパートなどの空き部屋を有効活用する運営は「北海道方式」と呼ばれ、ハウスの新しい形として全国的に注目されている。

道内では他に02年4月、北電と北電労組が創立50周年を記念、北大病院と札幌大病院にハウスを建設寄贈する共同事業を行うなど、運動は着実に広がっている。

部屋を提供する形で、一泊千円台を中心と高くても二千五百円。子供に限らず、大人の患者に付き添う場合にも利用できる。ハウスとして登録されているホテルも五つある。

HFHによると、延べ宿泊数は年間約五千二百泊で、本年度上半期(〇四年四月―九月)は約二千泊。利用者は函館や釧路、旭川、十勝管内清水町など全道八十市町村に加え、

患者と家族のケアの場

低料金 札幌市内に25施設

久しぶりの家族のだらんの場となるなど、「病院近くのわが家」として、患者と家族の精神的ケアにも大きな役割を果たす。

■管内からも利用者

二〇〇〇年十一月設立のボランティア団体「北海道ファミリーハウス」(HFH、札幌市北区、理事長・松本啓三、北大名誉教授)には現在二十五施設が登録。大半はアパートやマンションのオーナーが

福岡県など全国十一都府県からも四十四件利用があった。胆振、日高管内からも浦河町の十二件をはじめ、えりも町六件、平取町と穂別町が各二件など管内十町から計二十九件の利用があった。札幌に比較的近い東胆振でも時間や交通費がかかり、毎日の日帰りには困難。ハウスのニーズがあることが分かる。

■地方へ存在浸透を

HFHでは施設のガイドブックを毎年製作、全道の主に福岡県など全国十一都府県からも四十四件利用があった。胆振、日高管内からも浦河町の十二件をはじめ、えりも町六件、平取町と穂別町が各二件など管内十町から計二十九件の利用があった。札幌に比較的近い東胆振でも時間や交通費がかかり、毎日の日帰りには困難。ハウスのニーズがあることが分かる。

一方で松山管内奥尻町のよわらげるのに少しでも役立てるべく、ハウスの存在を広報誌「わらげる」に紹介し、多くの自治体に協力を呼びかけ、医師の積極サポートが中心。HFHでは個人に加え、運動を応援してくれる企業の参加も求めている。

もう一つの課題はHFHの財政基盤の強化。ボランティアで運営する団体は個人中心の賛助会員の寄付が支えだ。ハウスの先進地米国では企業との積極サポートが中心。HFHでは個人に加え、運動を応援してくれる企業の参加も求めている。

ハウスの利用など問い合わせは事務局 ☎011-716



札幌のファミリーハウスを紹介するガイドやパンフレット

「北海道ファミリーハウス」事務局のホームページ <http://www.3.snowman.ne.jp/~h-family/>も情報がある。

・4161